

平成 29 年度地方創生交付金等 事業実施結果

(平成 30 年度第 2 回亀岡市総合計画審議会進行管理部会資料)

平成29年度 地方創生交付金等事業 一覧

No.	交付金	計画名
1	地方創生拠点整備交付金	古民家利活用による移住定住促進施設整備
	地方創生推進交付金	移住促進拠点活用事業
2	地方創生推進交付金	「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」プロジェクト
	企業版ふるさと納税	ガーデン・ミュージアムおもてなし事業
3	地方創生推進交付金	森のステーションかめおか
	企業版ふるさと納税	森のステーションかめおか(神前地区)魅力向上事業
4	地方創生拠点整備交付金	森のステーション1(神前地区) 「(仮称)森のステーションファンタジーコテージ設置と周辺拠点整備」
	地方創生拠点整備交付金	森のステーション3(川東地区) 「七谷川野外活動センター さくらツリーハウスの整備」
5	地方創生推進交付金	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業

平成30年度 亀岡市地方創生事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業No.1

事業の名称 (活用した交付金)	古民家利活用による移住定住促進施設整備 (地方創生拠点整備交付金) 移住促進拠点活用事業 (地方創生推進交付金)	事業期間	平成29年度 (拠点整備) 平成29～31年度 (推進)	事業費(補助率)	54,210,812円(1/2補助) (拠点整備交付金) 998,589円(1/2補助) (推進交付金)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	亀岡市						
事業担当課	(拠点整備・推進交付金)市長公室ふるさと創生課						
事業概要	<p>緩やかな人口減少が続く本市において移住・定住促進は地域活性化に必要不可欠の要素である。旧城下町の一角にある古民家を改装し、移住希望者の相談対応窓口や生活体験をしていただくためのお試し住宅、移住者同士がつながるための地域交流拠点とすることで、「トカイ」の利便性を失わず、一方で、京都府内最大の農産物生産地としての「イナカ」の良さを享受できる「トカイナカ」としての本市の良さを感じられる移住定住促進拠点を整備する。</p> <p>整備した拠点の運営について、移住希望者や本市に住む特に若者世代が本市で生活し、働くことが魅力的なものに感じられるよう、施設及びその周辺の魅力が伝わる移住体験ツアーやセミナー、本市に古くから伝わる郷土食を使ったケータリングサービスなどの開発に地元住民に積極的に参画いただき、取り組む。市外からの移住希望者や移住者だけではなく、これまで、本市の魅力に気が付かず、市外での生活に方向性が向いていた特に若者が、本市に誇りをもち、今後も住み続けたいと思えるシビックプライドを持つことで、若者世代にとって、「選ばれるまち」「住み続けたいまち」を目指す。</p>						
取組内容	<p>本市西堅町内において、所有者から寄附を受けた古民家を、古民家再生・活用の第一人者であるアレックス・カー氏が代表を務める簾庵(ちいおり)有限会社の企画監修の下で、お試し住宅兼観光客向けの宿泊施設として活用するために母屋及び離れ部分の修復・整備を行うとともに、宿泊者等が使用する家具等の調度品類の購入を行った。</p> <p>また、平成30年度の施設運用開始に備え、当該施設を紹介するホームページ作成に向けてサイトページの作成を行うとともに、情報発信の一環として全国のこだわりのある職を紹介する「日本仕事百貨」へ施設紹介等に関するページを掲載した。</p>						
取組の成果	<p>古民家の持つ魅力や歴史を感じさせつつも宿泊者の使いやすさを損なわないように、かつ、3組が同時に宿泊利用できるように行った内部改修が完成し、運用開始に向けたハード整備が順調に進んだ。平成30年度に外溝工事や庭の整備を行い、平成30年10月のオープンを予定している。</p> <p>また、「日本仕事百貨」掲載を通じた亀岡での地方創生に関する取り組みの情報発信により、市外からスタッフを募集したことで、スタッフが移住経験者として利用者をサポートする仕組みを構築できる見込みである。</p> <p>今後は完成した施設で宿泊利用、移住体験を受け入れる他、地域住民と協働で城下町等の資源を活かしたモデルコースの構築、マップの作成等を実施し移住促進の拠点となるような運用を予定している。</p>						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容		指標値(H30.3)	実績値(H30.3)	達成/不達成	評価(A~C)	事業の今後について
	KPI①	亀岡市の転出入の増減幅縮小(直近5年間合計)	△1,650人 (転出が転入を1,650人超過)	△2,130人 (転出が転入を2,130人超過)	不達成	【B: 地方創生に効果があった。】 転出・転入数について現時点で効果は現れていないが、本市への移住希望者は既に一定数いることから、本事業としては施設開設以降に移住促進による地方創生への効果が十分に見込まれる。	
	KPI②	本施設の移住相談窓口来訪者のうち、本市への移住決定者	0人 (H30開設予定)	0人	—		
	参考	移住相談者全体の、本市への移住決定者	—	45人	—		
KPI③	本施設の宿泊者数	0人 (H30開設予定)	0人	—			
外部有識者会議 評価・意見 (亀岡市総合計画審議会進行管理部会)	<p>【地方創生に効果があった。】 当事業は古民家再生の一つのモデルとなると思う。 移住者の農機具についての支援があると良い。 今後施設を活用していただくことを期待する。</p>						

事業の取組・成果に関する写真等



工事前(築96年の古民家)



工事後(移住促進拠点「離れにのうみ」)



内装



調度品



ホームページ
(オープンに合わせて公開予定)



日本仕事百貨での従業員募集
(仕事内容と併せて亀岡市の紹介)

平成30年度 亀岡市地方創生事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業No.2

<p>事業の名称 (活用した交付金)</p>	<p>「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」プロジェクト (地方創生推進交付金) ガーデン・ミュージアムおもてなし事業 (企業版ふるさと納税)</p>	<p>事業期間</p>	<p>平成28～30年度 (推進) 平成29年度 (企業版)</p>	<p>事業費(補助率)</p>	<p>26,784,565円(1/2補助) (推進交付金) 25,000,000円(全額寄附) (企業版ふるさと納税)</p>																														
<p>実施計画の作成主体 (広域連携対象)</p>	<p>亀岡市</p>																																		
<p>事業担当課</p>	<p>(推進交付金)健康福祉部地域福祉課、まちづくり推進部都市計画課、都市整備課、土木管理課 (企業版ふるさと納税)まちづくり推進部都市整備課、土木管理課</p>																																		
<p>事業概要</p>	<p>亀岡市内に息づく花や緑などの魅力を体感いただくため、市民・民間が主役の緑のまちづくりを進める「ガーデン・ミュージアム」と、豊かな自然環境に恵まれた地域の生物保全や地域資源を活かしたまちづくりを進める「ネイチャー・ミュージアム」の2つを融合させ、亀岡まるごとミュージアム(博物館)として位置付け、亀岡の来訪者へのおもてなしの気持ちを表すとともに、地域活性化、観光振興を図り、にぎわい人口の拡大及び定住促進に繋げる。</p>																																		
<p>取組内容</p>	<p>「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」プロジェクトとして以下の取組を実施した。 「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想の策定に向け、京都学園大学(都市部編)、京都大学(農村部編)に調査等を委託し、地元住民や関係機関との意見交換を行うワークショップの開催、及び京都・亀岡保津川公園の整備に関する先進地として国営明石海峡公園神戸地区「あいな里山公園」の視察等を実施した。また、福井県立大学進士五十八学長へアドバイザー業務を委託し、構想策定に関して必要な助言を得た。 「ウェルカムガーデン整備事業」として、市外から亀岡への来訪者を気持ちよく迎え、亀岡の魅力を体感していただくために亀岡IC周辺、湯の花温泉周辺、市役所前、JR亀岡駅前、ふれあいプラザのウェルカムガーデンやスポットガーデンを整備し、花壇の植栽などを行った。 「花と緑のまちづくり事業」として、花と緑の豊かな潤いと安らぎのあるまちづくりの普及・啓発活動のための「2017花と緑のフェスティバル」を始め、「市花展示会」などの委託事業を行った。 「オープンガーデン」として、亀岡市のガーデンシティの実現に向けて個人の庭をオープンガーデンとして公開し、市民がその庭を訪れ、人との素敵な出会いや市民参加の花と緑のまちづくりの推進に取り組み、併せて観光の拠点づくりやまちの活性化に寄与することを目的に「オープンガーデン2017」の委託事業を行った。 「桜守認定制度」として、市の木である桜を適切に維持管理し、積極的に守り育てるために、意欲的に桜づくりに取り組んでいただける方を市民から募集し、桜守として必要な桜に関する知識・管理技術を習得いただくことを目的に、「かめおか桜守養成講習会」や先進地への視察研修の委託事業を行った。 「わがまち花づくり推進事業」として、花と緑を通じ、地域の協働とふれあいの中で安全安心のまちづくりを目指し、地域の個性を活かしながら、地域コミュニティの充実を図り、地域住民の心に潤いを与える花と緑の癒しの空間を創出するための自治会等の活動に対して補助を行った。 また、企業版ふるさと納税を活用した「ガーデン・ミュージアムおもてなし事業」として、市外から亀岡への来訪者の目に触れる箇所に、ウェルカムガーデン整備及びウェルカムロード整備を行った。ウェルカムガーデンとして京都縦貫道亀岡ICと市役所別館にラクウショウ、メタセコイア等の植栽を行い、ウェルカムロードとして京都縦貫道篠ランプにメタセコイア並木、JR並河駅前に桜並木を植樹した。</p>																																		
<p>取組の成果</p>	<p>京都学園大学、京都大学から調査等に基づく提案を受けて、都市部の名水や名木、城下町などや、農村部各地区の社寺、生物、農作物などの地域資源を抽出・整理し、これらの資源を活かして市全体を回遊式庭園のように結ぶ亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想を策定した。今後は、花や緑と各地域固有の資源を活かした景観づくりやいこいの場の整備、イベントの開催などを市民と共に取り組むことで、市民の地元への愛着を育て、定住人口の定着を図るとともに、多様な機会を利用して本構想を普及し、花と緑にあふれるまち亀岡を市内外に広く発信する。 「ウェルカムガーデン整備事業」については、市外から亀岡への来訪者へのおもてなしの心を表すとともに、市役所前等のスポットガーデンを市民団体などの協力を得る中で市民協働による整備を行い、亀岡への郷土愛の醸成を図った。 「花と緑のまちづくり事業」については、「2017花と緑のフェスティバル」の開催期間中、市内外から約10,000人の来場者が訪れ、来場者に花と緑の展示や押し花アート教室などの体験教室などを楽しんでいただくことで、都市緑化の普及啓発による花と緑の豊かな潤いと安らぎのあるまちづくりの推進に繋がった。 「オープンガーデン」については、「オープンガーデン2017」でコンサートの開催や市民が個人宅47庭を花飾りで彩って公開し、参加者がその庭を訪れることで、まちの賑わいを創出した。また、市民が花と緑の美しい景観づくりに自ら参加することで、市民参加によるガーデンシティの実現に繋がった。 「桜守認定制度」については、桜に関する優れた知識・管理技術を保持、習得する「かめおか桜守」の認定に向けた養成講習会を実施し、42名の応募があった。講習会では、桜保全の先進地である青森県弘前市から講師を迎え、桜の管理方法について講義をいただいた。今後も継続して講習を実施することで「かめおか桜守」を認定し、桜の適切な維持管理を行うことで、亀岡市の桜の魅力を市内外に広めるとともに、市民の協働による花と緑のまちづくりの推進に繋げる。 「わがまち花づくり推進事業」については、自治会等が実施する地域の住民が日頃から利用する道路沿いや公園周辺、また自治会館やバス停、ごみ集積場等に花壇やプランターを設置、植栽を行う花づくり事業に対する補助を行い、市民・民間が主役の花と緑のまちづくりの推進に寄与した。 また、企業版ふるさと納税を活用した「ガーデン・ミュージアムおもてなし事業」では、市外から亀岡への来訪者をおもてなしするウェルカムガーデン、ウェルカムロードの整備が完了し、亀岡市の魅力を発信できるスポットとなった。</p>																																		
<p>重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内容</th> <th>指標値(H30.3)</th> <th>実績値(H30.3)</th> <th>達成/不達成</th> <th>評価(A~C)</th> <th>事業の今後について</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>KPI①</td> <td>亀岡市の転出入の増減幅縮小(直近5年間合計)</td> <td>△1,650人 (転出が転入を1,650人超過)</td> <td>△2,130人 (転出が転入を2,130人超過)</td> <td>不達成</td> <td rowspan="4">【B:地方創生に効果があった。】 現時点で転出・転入数に効果は現れていないが、亀岡市を訪れる人を示すにぎわい人口は増加しており、今後の展開に向けて一定の効果はあった。</td> <td rowspan="4">【事業を継続】 良好な景観形成、地域活性化、観光振興、環境保全及び、市民と協働での花と緑のまちづくりに効果が見込まれるため、継続して実施する。</td> </tr> <tr> <td>KPI②</td> <td>にぎわい人口を600万人にする。</td> <td>5,736,000人</td> <td>5,970,484人</td> <td>達成</td> </tr> <tr> <td>KPI③</td> <td>市民及び来訪者アンケートによる亀岡市での居住意向人数</td> <td>350人</td> <td>未実施</td> <td>不明</td> </tr> <tr> <td>参考</td> <td>移住相談件数</td> <td>—</td> <td>322件</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	内容		指標値(H30.3)	実績値(H30.3)	達成/不達成	評価(A~C)	事業の今後について	KPI①	亀岡市の転出入の増減幅縮小(直近5年間合計)	△1,650人 (転出が転入を1,650人超過)	△2,130人 (転出が転入を2,130人超過)	不達成	【B:地方創生に効果があった。】 現時点で転出・転入数に効果は現れていないが、亀岡市を訪れる人を示すにぎわい人口は増加しており、今後の展開に向けて一定の効果はあった。	【事業を継続】 良好な景観形成、地域活性化、観光振興、環境保全及び、市民と協働での花と緑のまちづくりに効果が見込まれるため、継続して実施する。	KPI②	にぎわい人口を600万人にする。	5,736,000人	5,970,484人	達成	KPI③	市民及び来訪者アンケートによる亀岡市での居住意向人数	350人	未実施	不明	参考	移住相談件数	—	322件	—					
内容		指標値(H30.3)	実績値(H30.3)	達成/不達成	評価(A~C)	事業の今後について																													
KPI①	亀岡市の転出入の増減幅縮小(直近5年間合計)	△1,650人 (転出が転入を1,650人超過)	△2,130人 (転出が転入を2,130人超過)	不達成	【B:地方創生に効果があった。】 現時点で転出・転入数に効果は現れていないが、亀岡市を訪れる人を示すにぎわい人口は増加しており、今後の展開に向けて一定の効果はあった。	【事業を継続】 良好な景観形成、地域活性化、観光振興、環境保全及び、市民と協働での花と緑のまちづくりに効果が見込まれるため、継続して実施する。																													
KPI②	にぎわい人口を600万人にする。	5,736,000人	5,970,484人	達成																															
KPI③	市民及び来訪者アンケートによる亀岡市での居住意向人数	350人	未実施	不明																															
参考	移住相談件数	—	322件	—																															
<p>外部有識者会議 評価・意見 (亀岡市総合計画審議会進行管理部会)</p>	<p>【地方創生に効果があった。】 庭の持つ多面的な機能や、庭づくりのコツの指導をしてはどうか。 下水の汚泥から作るコンポストや有機たい肥について、ガーデニングをされる方にも積極的に活用してもらってはどうか。 おもてなしの気持ちをしっかりと伝えられるよう事業を進めていただきたい。</p>																																		

事業の取組・成果に関する写真等



亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想



市民と協働でのスポットガーデン整備



スポットガーデン(市役所前)



花と緑のフェスティバル



桜守認定講習



ウェルカムガーデン(市役所別館)

平成30年度 亀岡市地方創生事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業No.3

事業の名称 (活用した交付金)	森のステーションかめおか (地方創生推進交付金) 森のステーションかめおか(神前地区) 魅力向上事業 (企業版ふるさと納税)	事業期間	平成28～30年度 (推進) 平成29年度 (企業版)	事業費(補助率)	14,300,000円(1/2補助) (推進交付金) 10,000,000円(全額寄附) (企業版ふるさと納税)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	亀岡市						
事業担当課	(推進交付金・企業版ふるさと納税)産業観光部商工観光課						
事業概要	<p>「森の京都」としての取組の効果をより一層高めるため、市街地周辺地域のそれぞれ特徴を有する神前地区[匠ビレッジ、チョロギ村]、西別院町[ドリムトン村(英国村)]、川東地区[レンタサイクル事業等]の3地域を「森のステーション」として位置付け、「森の京都」の新たな入り口としての機能を持たせ、市街地及び隣接する京阪神から来訪者を呼び込み、亀岡市全体に人の流れを創出し、滞在型の事業を展開することで、亀岡市の付加価値を向上させ、にぎわい人口の拡大及び定住促進に繋げることを目的とする。</p> <p>平成28年度に地方創生加速化交付金を活用して亀岡市交流会館に整備した、「匠ビレッジ」を拠点とし、地域資源を活用して砥石の職人の技の伝承及びチョロギなどを使った特産品開発等を行い、地域コミュニティの活性化やにぎわいの創出を図る。</p>						
取組内容	<p>亀岡で上質で多彩な砥石が採れることから「天然砥石の聖地」の発信とともに、様々な「匠の技」を紹介する亀岡市の新たな観光の拠点として「森のステーションかめおか」匠ビレッジをスタートした。匠ビレッジでは、天然砥石の採掘現場を再現したオブジェの制作をはじめ、刀剣用、料理人の包丁用、大工職人の鑿(のみ)や鉋(かんな)などの用途に合わせた天然砥石とその道具を紹介するブースを整備した他、地元住民やNPOチョロギ村等が参画する「森のステーションかめおかプロジェクト」を中心に職人の技を紹介する「匠の技展」やワークショップの開催、地元の職人が制作した食器等の展示販売コーナーの整備を行い、職人の技術の魅力を体験できるあらたな観光拠点施設として取り組んだ。</p> <p>また、匠ビレッジの2階に地域の特産物を活用し特色ある観光拠点とするため菓膳レストランを整備し、地域特産活用型のビジネスモデルとして、認知症予防に効果があるとされている「チョロギ」をはじめ金時生姜などの販売ブースの設置をした。レストランについては平成30年5月26日にグランドオープンしたところである。</p> <p>企業版ふるさと納税を活用した事業として、匠ビレッジの外の広場に京都学園大学の監修を受け約90種類9,000株の草花を植えた菓草の原っぱ「菓草原」を整備し、散策を楽しみながら菓草について学べる施設として魅力の向上を図った。</p>						
取組の成果	<p>匠ビレッジは天然砥石の歴史や地質についての展示解説の他に、地元の職人を雇用し、天然砥石を使用する包丁等の研ぎ体験の指導を行うことで、亀岡の砥石文化を広く発信した。あわせて様々な職人の方にも匠ビレッジの趣旨に賛同をいただき、京都保津産の藍をつかった藍染や、蚕を交流会館内で育てて養蚕の展示を行った。また、実際に日本刀と同じ素材からの小刀造りや絹織の体験などのワークショップを行い、累計163人の参加があり、市内外に広く職人の技術の魅力を知っていただくことができた。</p> <p>展示販売ブースでは、朝どれの地元野菜や工芸品等を販売する拠点ができただけで新たな雇用を促進した他、チョロギエキスを抽出する特許製法を用い、エキスにすることでチョロギどらやき、チョロギまんじゅう、チョロギジュラート等、様々なここでしか手に入らない商品の開発、販売を通じて地域資源の魅力を発信し、亀岡市内のみならず隣接する市町からも多くの方に来館いただいた。</p> <p>菓膳レストランについては平成30年5月26日のオープンに向けて、スタッフの接客研修、外部有識者を招いた試食会、盛り付け研修、同業のレストラン視察を通して、レストラン開店の準備を進めるとともに、広報活動にも精力的に取り組んだことで、オープン前からテレビ、ラジオや料理雑誌等でも取り上げられ、情報発信できた。オープン後は健康志向の若い女性や地元住民をはじめ多くの来客でにぎわっている。</p> <p>企業版ふるさと納税を活用して整備した菓草原については、菓草を使ったワークショップを開催している他、菓膳レストランや匠ビレッジを訪れる方が散策を楽しみ、チョロギ等の地域特産物や菓草の魅力を体感して学べる施設として活用している。</p>						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容		指標値(H30.3)	実績値(H30.3)	達成/不達成	評価(A~C)	事業の今後について
	KPI①	観光消費額	66.16億円	74.69億円	達成	【B:地方創生に効果があった。】 関連施設の入場者数が伸びなかったことから不達成となったが、拠点施設としての森のステーションかめおかの運営は順調で、地方創生に一定の効果があったと言える。	【事業を継続】 今後は認知度を高める取り組みとしてプロモーション活動に力を入れ、継続的に市内外からの誘客を図り、交流人口の増加、地域の雇用促進、移住定住促進を図る事業を継続して実施する。
	KPI②	森のステーションかめおか入場者数(神前・西別院・川東地区合計)	140,000人	89,583人	不達成		
	KPI③	匠ビレッジかめおか職人の技展開催事業による職人サポート数	4人	8人	達成		
KPI④							
外部有識者会議 評価・意見 (亀岡市総合計画審議会進行管理部会)	<p>【地方創生に効果があった。】 砥石や染物といった民俗資料について、文化資料館の講座等と連携すれば、リピート率が上がると思う。 菓膳レストランについて、外国人に向けた案内が不足している。 市が投資した施設について、観光でどれくらい入場者を増やしていけるかが大事である。</p>						

事業の取組・成果に関する写真等



匠ビレッジ 館内展示



匠ビレッジ 研ぎ体験



「匠の技展」紋織講習



夏展示(藍染め)



薬膳レストラン メニュー



薬膳レストラン 内装



森のステーションかめおか全景



薬草原 案内看板



薬草原 植栽

平成30年度 亀岡市地方創生事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業No.4

事業の名称 (活用した交付金)	森のステーション1「(仮称)森のステーションファンタジーコテージ設置と周辺拠点整備」 森のステーション3「七谷川野外活動センター さくらツリーハウスの整備」 (地方創生拠点整備交付金)	事業期間	平成29年度	事業費(補助率)	27,961,200円(1/2補助) (森のステーション1) 52,142,000円(1/2補助) (森のステーション3)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	亀岡市						
事業担当課	(森のステーション1)生涯学習部市民力推進課 (森のステーション3)教育部社会教育課						
事業概要	<p>「森のステーション1」(神前地区)の亀岡市交流会館(宮前町)は、地域資源である砥石や薬草等を活かした「匠ビレッジ」や「薬膳レストラン、薬草原」、また幼少期から親子で体験を通じて自然の大切さを学ぶ「地球環境子ども村」の3つの機能を有する、まさしく癒しの空間である。そこに、宿泊可能なコテージを設置することにより、山々に囲まれ生物との共生を身近に体感できる環境で、田舎暮らしなどの素晴らしさを体験いただくとともに、森のステーションかめおかを拠点に地域振興、地域活性化を図る。</p> <p>「森のステーション3」(川東地区)の七谷川野外活動センター(千歳町)は、生涯学習の場として野外活動を通じて自然の中で健全な青少年の育成を目的としている。本施設の魅力を高め、既存の設備を宿泊機能を持つよう改修することで、川東地区の観光誘客、観光消費の拡大、にぎわい創出の拠点施設を目指す。</p>						
取組内容	<p>「森のステーション1」(神前地区)の亀岡市交流会館においては、4人が宿泊可能なコテージを2棟と、トイレ・シャワー棟1棟を新築し、併せて森のステーションかめおかの拠点施設である亀岡市交流会館について、衛生設備工事等を実施した。工事の完了後、宿泊者へ貸し出す物品等の準備を行い、平成30年7月に宿泊施設としてオープンした。</p> <p>「森のステーション3」(川東地区)の七谷川野外活動センターにおいては、既存のツリーハウス8基を宿泊(1基につき4名まで)に対応できるよう改修し、宿泊客が豊かな自然環境にふれあい心身ともに癒されるような空間を提供するとともに、より快適な時間を過ごしていただけるよう、併せて管理棟のシャワールームの改修を行った。また、野外調理場のそばに悪天候でも食事、休憩に利用できる「あずまや(休憩施設)」を新築し、これまでとは違った雰囲気や飯盒炊さんやバーベキューを楽しめるよう整備した。</p>						
取組の成果	<p>「森のステーション1」(神前地区)の亀岡市交流会館については2棟のコテージを、森をテーマに「鳥の巣ロッジ」(Subako/Sumika)と名付け、バーベキュー等のアウトドア体験ができる宿泊施設として人気を集めている。同敷地の「森のステーションかめおか」における京野菜等の販売も順調で、「森のステーションかめおか」に多くの観光客・宿泊客が訪れるようになったことで地域住民の雇用創出にもつながっている。</p> <p>「森のステーション3」(川東地区)の七谷川野外活動センターについては、平成30年4月1日のリニューアルオープン以降、家族連れや団体客が多くツリーハウスやキャンプ場で宿泊しており、特に改修したツリーハウスでの宿泊者数は、7月末時点で100名を超えている。また、新築した「あずまや」で子ども会等の事業が開催されるなど地域振興や地域活性化にも寄与している。今後も「森の京都」関連事業である「丹波七福神宝船まつり」や「亀岡さくらまつり」などのイベントを通じて市内外から多数の来場者が見込まれ、千歳町をはじめとする川東地区のにぎわい創出につながることを期待される。</p>						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容		指標値(H30.3)	実績値(H30.3)	達成/不達成	評価(A~C)	事業の今後について
	KPI①	森のステーションかめおかに係る使用料収入	400千円	859千円	達成	【B:地方創生に効果があった。】 七谷川野外活動センター利用料金は12~3月の休館期間の影響もあり目標に達していないが、その他のKPIは好調である。今後施設の運用を通して更なる伸びが想定されることから、本事業としては地方創生に効果があると言える。	
	KPI②	地元住民雇用創出	8人	17人	達成		
	KPI③	京野菜等地元産品購買売上額	400千円	886千円	達成		
	KPI④	亀岡市七谷川野外活動センター利用料金	6,637千円	3,803千円	不達成		
KPI⑤	亀岡市七谷川野外活動センター利用人数	14,000人	14,506人	達成			
外部有識者会議 評価・意見 (亀岡市総合計画審議会進行管理部会)	【地方創生に効果があった。】 地方創生の観光振興事業としては、市外から人を呼ぶことが必要。 予約方法についてインターネットからできるようにすると良い。 地元食材の開拓によって、魅力を高められる。						

事業の取組・成果に関する写真等



コテージ(鳥の巣ロッジ)
(森のステーション1)



Subako(左)、Sumika(右)
(森のステーション1)



シャワー・トイレ棟
(森のステーション1)



ツリーハウス
(森のステーション3)



あずまや(レストハウス)
(森のステーション3)



子ども会交流会でのあずまや利用
(森のステーション3)

平成30年度 亀岡市地方創生事業評価シート(平成29年度実施事業)

事業No.5

事業の名称 (活用した交付金)	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業 (地方創生推進交付金)	事業期間	平成28～32年度	事業費(補助率)	65,032,614円(1/2補助)		
実施計画の作成主体 (広域連携対象)	京都府 (京都市、宇治市、亀岡市、城陽市、八幡市、長岡京市、木津川市、井手町、宇治田原町、京丹波町、南丹市、綾部市、精華町、南山城村、和束町、久御山町、京田辺市、福知山市、笠置町)						
事業担当課	生涯学習部文化・スポーツ課、市民力推進課、産業観光部商工観光課、農林振興課、文化資料館						
事業概要	ワールドベストシティランキングで2年連続1位に輝いた京都市に訪れる国内外の観光客を、京都府全域への周遊へつなげていくため、国際観光都市「京都市」、北部の「海」、中部の「森」、南部の「お茶」という地域ブランドの下にそれぞれDMOを設立し、圏域内の観光・交流・集客等に関する事業を一元的・総合的に実施できる体制整備を進めるとともに、各DMO間の周遊性の向上による観光滞在時間の長期化と観光消費額の増加を図り、観光産業が地域経済を循環させる社会の実現を目指す。						
取組内容	<p>亀岡市の観光の魅力を高めるため、「観光プロモーション・基盤整備事業」、「食農・観光等連携事業」、「にぎわい誘客事業」について実施した。</p> <p>「観光プロモーション・基盤整備事業」として、JR亀岡駅及びトロッコ亀岡駅観光案内所における英語観光案内対応事業、トロッコ嵯峨駅における臨時観光案内所設置事業、築約100年の町家を活用した城下町観光案内所事業、本市ゆかりの「明智光秀」大河ドラマ誘致活動事業、本市観光マスコットキャラクター「明智かめまる」を活用した観光キャンペーンや各種イベントへの参加を実施した。</p> <p>「食農・観光等連携事業」として、亀岡産野菜等のブランド化を図り、農業者の所得向上と地域農業の活性化を図った。具体的には立命館大学、龍谷大学、京都学園大学と連携した亀岡カーボンマイナスプロジェクトの中で、地球温暖化防止に貢献する野菜「クールベジタブル」を推進し、二酸化炭素削減を可能にするだけでなく、地域野菜のブランド化を図った。また、多くの人に「食」と「農」について理解を深めてもらい地産地消を推進できるように「かめおか農業塾」や「アグリフェスタ2017」、「料理塾」、新たな取組として、亀岡牛を中心とした亀岡産畜産物を味わう「肉フェスタ2017」の開催、京都縦貫自動車道に特産物をPRする横断幕を掲げ、亀岡農業の魅力を発信した。その他、安全・安心な農産物を消費者に提供できるよう、農薬や化学肥料の低減による環境に配慮した農業への支援を進め、亀岡市内で製造された畜産堆肥を活用し、農業の根幹となる土づくりを通じて集落営農活動を促進した。また、水田農業の将来を見据えた施策として、土地利用型農業による小豆の産地拡大、生産振興を図った他、京のブランド産品の丹波くりの産地育成や、市内直売所の体制強化の助成、地域農業の担い手確保・育成を図るため、認定農業者等が新規就農者に研修や指導する経費の助成を行った。</p> <p>「にぎわい誘客事業」として観光入込客を伸ばすため、明智光秀ゆかりの城下町を散策しながら協賛店でお得に食事、土産等を購入できる「宝さがしゲーム」、「亀岡祭」山鉾行事に合わせて城下町にあんどんを灯す街角ギャラリーを実施した。また、京都サンガ応援商店街づくり支援事業を実施し、京都スタジアム(仮称)建設を見据えてサンガ応援商店街を亀岡市内外にアピールし、集客の強化を図った。他、魅力ある商店街等のにぎわい創出事業として亀岡山城下ひなまつり事業を実施し、地域の活性化、新たなにぎわいの創出等を行った。その他、第3回京都亀岡ハーフマラソン大会への補助を行い、文化資料館においては通年の常設展に加え、第33回特別展「米づくりへの挑戦-並河成資と農林1号-」、第62回企画展「亀岡の土から生まれた! -響きあう造形美-」、第63回企画展「山陰道鎮撫隊-丹波の郷土と幕末維新-」を開催し、全国的に知られている亀岡ゆかりの人物や出来事を展示紹介することによる亀岡のPRを図った。</p> <p>その他の事業として、森の京都地域の連携とネットワークの強化を図り、観光地域づくり等の推進による交流人口の拡大等を図る(一社)森の京都地域振興社(森の京都DMO)の分担金を支出し、地域全体の活性化に資する事業を展開した。また、JR4駅に隣接する駐輪場を活用したレンタサイクル事業を実施し点在する観光資源のネットワーク化を図った他、ハイキングコース等の整備や市花つつじの植栽、草刈り等の観光地の環境整備・美化を実施した。</p>						
取組の成果	<p>「観光プロモーション・基盤整備事業」については、総務省と観光庁が発表した訪日外国人旅行者の調査において「英語が通じないこと」が最も困ったことであったため、臨時観光案内所を含めた観光案内所に英語のできるスタッフを常駐させ、求められる情報・サービスを観光案内所で適切に提供し、外国人を含めた観光入込客、外国人宿泊者数の増につなげた。また、三大観光のほか、霧のテラスや森のステーションかめおか等ここにしかない観光資源のPR、世界的観光都市である京都市からJR快速でわずか20分という認識を広めるため東京や名古屋、大阪、外国人向けに関西国際空港やタイでの広域的なプロモーションを実施し、インバウンドを含む観光入込客及び観光消費額の増につなげた。長年の誘致活動が実を結び平成32年に明智光秀が主人公の大河ドラマ「麒麟がくる」の放送が決まったことを受け、今後はドラマと連携したプロモーションについても検討し、取り組んでいく予定である。</p> <p>「食農・観光等連携事業」については、教育機関との連携や市民参加型の交流会「食×農×環境つながる交流会inかめおか」の開催、「地域ふれあいサイエンスフェスタ」への出展を通して、環境にやさしいクールベジタブルの取り組みを市内外の人に周知し、ブランド化を目指して魅力を発信した。「かめおか農業塾」は計8回で74人の参加があり、安全・安心な農産物を自分で栽培する体験の機会提供につながった。「アグリフェスタ2017」では、約5,000人の来場があり、「食」と「農」の理解促進、「地産地消」の意識づけについて、一定の成果があった。初開催となった「肉フェスタ2017」では、約3,000人の来場があり、多くの人に亀岡産畜産物を味わい、楽しんでもらうことで、認知度拡大とブランド振興の推進の一助となった。その他、安全・安心な農産物を提供するため、亀岡市内で製造された畜産堆肥を活用し、集落営農活動を推進する農家に対し、助成を行い、環境にやさしい循環型農業への取り組みに貢献した。特産品振興については、153戸、70.4haの小豆が生産販売され、京都丹波ブランドの特産品である馬路大納言、丹波大納言小豆の生産の拡大や品質の向上、丹波くりにおいては、剪定研修会などによる技術向上及び情報波及により、例年と比べ2L・Lを中心とする果実の出荷割合が高まるなど、京都・丹波・亀岡ブランド推進とその魅力づくりによる地域の活性化を図ることができた。</p> <p>「にぎわい誘客事業」については、関連団体等と協働で本市の歴史・文化に触れる取り組み、地域の特産品等をPRする取り組みを実施した。京都サンガ応援商店街づくり支援事業では京都サンガの試合に合わせた商店街のPRや、京都サンガ2018シーズン壮行会を実施し、商店街同士の連携や商工振興を図った。亀岡山城下ひなまつり事業では市内の各個店や城下町在住者宅計44か所において所蔵のおひなさまを飾って公開し、スタンプラリー、抽選会、着物着付けサービスなどを実施することで、滞在時間の延長、観光消費額の増につなげた。他に、第3回京都亀岡ハーフマラソン大会では約9,000人の来場者(選手3,898人、応援約5,000人)で盛り上がり、文化資料館においても亀岡の歴史・文化を展示紹介することで、亀岡のにぎわい創出・魅力発信につながった。</p> <p>その他、地域の多様な事業者が参画する(一社)森の京都地域振興社(森の京都DMO)により、各地域の取り組みを横断的に調整し、地域資源のブラッシュアップ、地域の魅力発信、知名度の向上等を図り、地域全体で観光誘客等を推進する基礎を構築した。レンタサイクル事業では、点在する観光資源や交通拠点を結ぶ仕組みとして「かめまる観光レンタサイクル」事業を実施することで、滞在時間の延長、観光消費額の増につなげ、観光地やハイキングコース等の環境整備を実施することで、外国人観光客を含めた観光入込客及び観光消費額の増を図った。</p>						
重要業績評価指標(KPI)の達成状況、評価	内容		指標値(H30.3)	実績値(H30.3)	達成/不達成	評価(A~C)	事業の今後について
	KPI①	観光消費額(京都府)	9682.8億円	1兆1884.2億円 (亀岡市74.7億円)	達成	【A:地方創生に非常に効果があった。】 京都府全域で目標値を概ね達成しており、亀岡市でも指標全てが伸びているため、広域連携による観光推進として十分な成果があった。	【事業を継続】 当事業は広域連携による5か年の計画であり、観光誘客及び観光消費額増の効果が見込めるため、今後は大河ドラマとの連携も含め、継続して実施していく。
	KPI②	観光入込客数(京都府)	8874.4万人	8686.7万人 (亀岡市290.9万人)	不達成		
	KPI③	外国人宿泊者数(京都府)	263.85万人	361.21万人 (亀岡市0.63万人)	達成		
	KPI④						
外部有識者会議 評価・意見 (亀岡市総合計画審議会進行管理部会)	【地方創生に効果があった。】 亀岡産野菜、小豆、亀岡牛等のブランドについて、亀岡市内でそれらを食べてもらえる場所を増やしていく必要がある。 海外プロモーションについて、ヨーロッパやアメリカへの発信が弱い。 クラウドファンディングによる情報発信も、世界から注目を得て外国人を呼ぶことに活用できる。						

事業の取組・成果に関する写真等



トロッコ嵯峨駅臨時観光案内所



カーボンマイナスプロジェクト
(「食×農×環境」つながる交流会in亀岡)



肉フェスタ2017



特産物PR 横断幕(京都縦貫自動車道に掲出)



文化資料館第63回企画展「山陰道鎮撫隊
—丹波の郷土と幕末維新—」



サンガ応援商店街づくり支援事業
(京都サンガ2018シーズン壮行会)



亀山城下ひなまつり事業



第3回京都亀岡ハーフマラソン大会



かめまる観光レンタサイクル事業